

2025 年度 4 月入学（春季） 大学院入試

研究科・課程・専攻	経済学研究科 博士前期課程 経済学専攻
入試種別	外国人留学生入試
試験科目	金融政策論
実施日	2025 年 2 月 15 日（土）

●出題の意図

「金利コリドールの形成メカニズムとその役割、留意点」は、金利コリドールを通じて短期市場金利が安定する仕組みやその留意点について、正確に理解しているかを確認する問題です。また、「非伝統的金融政策としてのフォワードガイダンスの狙いと課題」、「非伝統的金融政策としての量的緩和の期待される効果と副作用」については、非伝統的な金融政策の各種手段について、その基本的な仕組みや期待される役割、課題や副作用について正確に理解しているかを確認する問題です。

●解答または解答例（採点時の観点）

- ・設問の主旨を正確に把握し、的確に論述できているか
- ・「金利コリドール」、「非伝統的金融政策」、「フォワードガイダンス」、「量的緩和」といったキーワードを正しく理解し、用語を適切に用いているか
- ・論理構成が一貫しており、説得力のある記述になっているか 等々

以上

2025 年度 4 月入学（春季） 大学院入試

研究科・課程・専攻	経済学研究科 博士前期課程 経済学専攻
入試種別	一般入試
試験科目	財政学（下山）
実施日	2025 年 2 月 15 日（土）

●出題の意図

この科目は、租税原則や各種租税の制度や意義について、正確に理解できているか、また、それらの理論的背景を説明できるかを確認することを目的として出題している。特に、租税原則だけでなく、近年の所得税や消費税をめぐる時事的な課題についても理解しているかについても、その知識や関心をはかることを目的としている。当該分野について自ら学んできた知識、興味関心や理解の程度を総合的に評価することを狙いとしている。

●解答または解答例（採点時の観点）

採点時の観点例として次のことが挙げられる。

- ・設問の趣旨を正確に把握し、的確に論述できているか。
- ・論理構成が体系的であり、洗練された記述になっているか。
- ・理論的背景をきっちりと記述できているか。
- ・専門用語が適切に使われているか。
- ・時事情報について、適切に用いられているか。

以上

2025 年度 4 月入学（春季） 大学院入試

研究科・課程・専攻	経済学研究科 博士前期課程 経済学専攻
入試種別	一般入試
試験科目	財政学（塚谷）
実施日	2025 年 2 月 15 日（土）

●出題の意図

本設問は、指定された入試ガイドラインに基づき、現代財政の構造と課題に関する理解を問うものである。その意図は、第 1 に、社会保障制度や支出税など、国家財政を支える制度的基盤に対する基礎的理解を評価する。第 2 に、現代財政は少子高齢化の進行による社会保障費の増大に加え、経済のグローバル化に伴う課税権の競争や国際的な財政協調の必要性に直面しており、その理解を評価する。第 3 に、受験生が国内制度のみならず、国際的視野から財政の持続可能性や再分配機能を捉えられているかを確認することを目的とした。

●解答または解答例（採点時の観点）

採点にあたっては、以下の点を重視した。第 1 に、設問の主旨を的確に把握し、それに即した論述ができているか、また、与えられた問いに対して、現代財政の特質や制度的課題を踏まえた具体的かつ論理的な展開ができているかを確認した。第 2 に、財政に関する基礎的知識を正しく理解し、「租税」「社会保障」に関する専門用語を適切に用いているかを評価した。また、文章全体の構成や論理の一貫性も重要な観点であり、因果関係や対比を明確に示しながら、主張と根拠が整合しているかを確認した。第 3 に、単なる知識の羅列ではなく、自らの理解に基づいた説明や論拠の提示を通じて、説得力と論理的整合性のある記述となっているかを踏まえて総合的に判断した。

以上

2025 年度 4 月入学（春季） 大学院入試

研究科・課程・専攻	経済学研究科 博士前期課程 経済学専攻
入試種別	外国人留学生入試
試験科目	日中交流史
実施日	2025 年 2 月 15 日（土）

●出題の意図

本試験は、清末期における日中交流の実態とその歴史的意義を多角的に理解する力を問うものである。第 1 問では、日本留学を通じて中国人知識人が近代化思想を吸収し、政治・教育・法制度などの改革に貢献した歴史的背景と役割を論じさせることで、人的交流の影響力を評価させる。同時に近代中国の変革における日本の位置づけを理解させる。第 2 問では、清末新政期に日本をモデルとした制度改革の具体例を挙げ、制度移植・政策模倣の実態と限界を、具体的事例を通じて分析し、その意義を考察させる。第 3 問では、日系中国語新聞を取り上げ、情報・言論の交流を通じた知的ネットワークの形成と、近代的メディアの政治的・文化的意義を考察させる。同時にメディアを介した日中文化交流の実態を把握させる。

●解答または解答例（採点時の観点）

本試験では、清末期の日中交流に関する三つの設問を通じて、受験者が歴史的な事象を的確に理解し、論理的に展開できるかを評価する。採点においては、まず各設問の主旨を正確に把握し、問いに対して的を射た論述がなされているかを重視する。次に、「日本留学」「新政改革」「日系中国語新聞」などのキーワードを正しく理解し、適切な文脈で用いているかを確認する。また、論述の構成が一貫しており、因果関係や背景説明が明確で、説得力のある記述となっているかも重要な評価基準である。加えて、具体例の選定や先行研究への言及がある場合は加対象とし、単なる事実の羅列ではなく、歴史的意義や影響を自らの視点で考察しているかどうかを評価のポイントとなる。

以上

2025 年度 4 月入学（秋季） 大学院入試

研究科・課程・専攻	経済学研究科 博士前期課程 経済学専攻
入試種別	外国人留学生入試
試験科目	金融政策論
実施日	2024 年 9 月 21 日（土）

●出題の意図

「物価の変動が好ましくない理由」については、金融政策の目的である物価の安定に関連して、「銀行の役割としての情報生産機能と資産変換機能」については、銀行の機能に関連して「伝統的な金融政策の政策効果の伝達経路」については、政策金利の変更を主体とする伝統的な金融政策が実体経済に影響を与える経路について、大学学部レベルでの知識と理解度をたずねる問題です。

●解答または解答例（採点時の観点）

- ・設問の主旨を正確に把握し、的確に論述できているか
- ・「銀行の情報生産機能」、「（銀行の）資産変換機能」、「伝統的な金融政策」といったキーワードを正しく理解し、用語を適切に用いているか
- ・論理構成が一貫しており、説得力のある記述になっているか 等々

以上

2025 年度 4 月入学（秋季） 大学院入試

研究科・課程・専攻	経済学研究科 博士前期課程 経済学専攻
入試種別	一般入試
試験科目	財政学（下山）
実施日	2024 年 9 月 21 日（土）

●出題の意図

この科目は、租税原則や各種租税の制度や意義について、正確に理解できているか、また、それらの理論的背景を説明できるかを確認することを目的として出題している。特に、租税原則のあるべき姿については、財政学の分野で基本的な事項の一つであり、自ら学んできた知識を、文章全体を通して整理し、表現する力を測る意図がある。これにより、論理的思考能力、当該分野における理解の程度を総合的に評価することを狙いとしている。

●解答または解答例（採点時の観点）

採点時の観点例として次のことが挙げられる。

- ・設問の趣旨を正確に把握し、的確に論述できているか。
- ・論理構成が体系的であり、洗練された記述になっているか。
- ・理論的背景をきっちりと記述できているか。
- ・専門用語が適切に使われているか。
- ・時事情報について、適切に用いられているか。

以上

2025 年度 4 月入学（秋季） 大学院入試

研究科・課程・専攻	経済学研究科 博士前期課程 経済学専攻
入試種別	一般入試
試験科目	財政学（塚谷）
実施日	2024 年 9 月 21 日（土）

●出題の意図

本設問は、指定された入試ガイドラインに基づき、現代財政の役割とその理論的基盤に関する理解を問うものである。その意図は、第 1 に、マスグレイブによる財政の三機能（資源配分・所得再分配・経済安定化）を中心に、国家財政が果たす多面的な役割を体系的に理解しているかを確認した。第 2 に、時代の変化に伴って生じる経済社会構造の変化と租税構造の推移、グローバル化の進展による課税ベースの変化に対する理解についても問うた。第 3 に、最適課税論に代表される制度的・理論的アプローチを通じて、効率性と公平性のバランスを考察できるかを確認することを目的とした。

●解答または解答例（採点時の観点）

採点にあたっては、設問の主旨を正確に把握し、その意図に即して論述できているかを重視した。第 1 に、提示された問いに対し、単なる知識の羅列ではなく、現代財政の理論的枠組みや制度的背景を踏まえて一貫した説明ができているかを確認した。第 2 に、財政に関する基礎的な知識を理解し、主要な財政学者の理論について専門用語を適切に用いているか、また、論理の流れの明確性、因果関係や対比を整理して主張する構成となっているかも重要な観点とした。第 3 に、理論的理解と具体的な事例を結びつけ、自らの考えを論理立てて展開し、説得力と整合性を備えた記述になっているかを総合的に評価した。

以上

2025 年度 4 月入学（春季） 大学院入試

研究科・課程・専攻	経営学研究科 修士課程 経営学専攻
入試種別	一般入試
試験科目	会計学
実施日	2025 年 2 月 15 日（土）

●出題の意図

入学後、税法関連のゼミに所属を希望する学生を念頭に、大きく 3 つの問題に分けて出題した。会計学を試験科目として選択しているという前提から、1 問目は、現代の会計学の基礎概念について、概念フレームワークと企業会計原則の対比について出題した。2 問目は、税法と会計学が交差する論点でもある固定資産に関して出題した。最後に、会計学における主要分野別の用語の定義に関して出題した。

●解答または解答例（採点時の観点）

以下、本学の学部で使用されている教科書をもとに、解答例を提示する。本学の大学院に進学にするにあたって、本学について一定の情報収集を行なっていることを想定して、それらの教科書の範囲内の解答であれば可とすることを想定した。(1)①企業会計の基礎にある前提や概念を体系化したものである。概念フレームワークは、公表される会計基準や実際の会計処理を理解する上で概念的（理論的・考え・あり方）基礎を提供するものであり、基準開発の指針を与える役割を果たす。投資意思決定における報告企業に関する財務情報の提供を重視する。これらの趣旨が書けていればよしとする。

(1)②企業会計原則は、経営成績や財政状態をいかに適正に表示するかという会計の技術的（計算）の側面を重視する。このため概念フレームワークと比較して、会計基準（会計情報）が投資意思決定等の利用者に与える影響は考慮されていない。また、演繹的に会計基準を導き出すことを前提としている概念フレームワークと比較すると、企業会計基準は、帰納的に会計基準を設定する。企業がその会計処理を行うにあたって従わなければならない基準であることや法律ではなく、企業会計における実践規範である点など、いずれかについて言及していればよしとする。

(2) ①使用目的に、重要性のある金額である財産をいう。②固定資産を使用するとその価値が減少し、その価値を生産物に移転していく。または、費用収益対応の原則に基づき、固定資産の使用した分を費用とする。費用収益対応の原則の説明であっても可能とする。いずれの視点で解答していてもよしとする。また、減価償却については、税法と会計学にて共有する論点のため、減価償却の定義、計算方法、具体例など、何らかの形で言及していればよしとする。

(3) ①標準原価：製品の製造に伴う材料費・労務費・（間接）経費について、科学的・統計的に算定する原価をいう。②統合報告書：財務情報に加えて、企業の環境や CG など

の非財務情報も統合した統一的な枠組みでの報告書。例：年次報告書と CSR 報告書 ③ジャストインタイム生産：自動化と並ぶトヨタの生産方式。在庫の最小化と生産効率の最大化。顧客のニーズに沿った生産。④包括利益：特定期間における純資産(=A-L)の変動額のうち、資本取引によらない部分をいう。資本取引：増資や減資など株主との直接的な取引、新株予約権の発行という将来株主になりうるオプション所有者との直接的な取引、有価証券・デリバティブその他有価証券評価差額金や繰延ヘッジ損益。⑤マテリアルフローコスト会計：廃棄物や排出物の原材料費や加工費を可視化して原価計算に組み入れることで廃棄物削減と生産性向上の両立を目指す。資源効率と経済効果の両立を図ることを目的とした管理会計の手法。以上を想定した解答とした。

全てが含まれていなくても、上記で触れている点について、的を絞って説明されることを想定した。

以上

2025 年度 4 月入学（春季） 大学院入試

研究科・課程・専攻	経営学研究科 修士課程 経営学専攻
入試種別	外国人留学生入試
試験科目	経営学
実施日	2025 年 2 月 15 日（土）

●出題の意図

大学院において、経営学を学ぶ上で最低限必要と思われる知識を有しているかを問う問題を出題した。具体的には（１）は経営理論（経営学史）に関して、（２）は経営組織に関して、（３）は企業等における人材育成に関して、（４）は経営環境の変化と、企業のそれへの対応について問うている。

なお、出題にあたっては、いわゆる「重箱の隅をつつく」ような内容は避けた。（１）～（３）は経営学の基礎的なテキストであれば、どのテキストでも扱っている事項についての記述を求めており、（４）は現在の企業の経営環境に関心を持っていれば、記述が可能な内容となっている。

●解答または解答例（採点時の観点）

採点にあたっては、まずは問うている内容を正確に把握しているかを重視した。たとえば（１）についてはそれぞれの経営学者の主張を正確に記述しようとしているか、（２）であれば「カンパニー制組織」とは何かを把握した上で回答しようとしているか、などである。

また、解答者自身の考えを問う問題（（２）や（４））については、単に事例の羅列に終始していないか、用語の説明だけに終わっていないかも採点のポイントとし、解答者自身の評価が明確な場合、高い評価を与えている。

最後に、記述内容の論理構成を一貫させようとする努力がみられるかどうかをみた。①書き出しと②それに続く部分、③結論とが明らかに一致していない内容となっていないかを重視した。①②③がそれぞれ明確に関連づけられながら議論がなされている場合に高い評価を与えた。

以上

2025 年度 4 月入学（春季） 大学院入試

研究科・課程・専攻	経営学研究科 修士課程 経営学専攻
入試種別	一般入試
試験科目	税法
実施日	2025 年 2 月 15 日（土）

●出題の意図

本設問は、指定された入試種別・科目の形式に従い、5 問のうち 2 題を選択して解答してもらう問題を出題した。複合的に構成される租税法につき、解答者の学習した基礎的知識に偏りがあった場合であっても解答可能となるように、憲法原理と租税法の関係を問う問題を 1 問並びに各個別税法 4 問の合計 5 問の選択肢を用意したうえで 2 問選択し、基本的な論点・法解釈論に関し法的視点から内容を把握し、法的に筋道を立てて論理的に学習した内容あるいは自己の私見等を言語化し、展開する力を有しているか否かを確認することを目的とした。

●解答または解答例（採点時の観点）

網羅的に租税法の基礎的知識を獲得しているか否か、または課税実務上の知識を身に付けているか否かを問うものではなく、租税法を法領域の一部として認識し、理解しているか否か、または設問で用いられている用語や趣旨を正確に把握し論述できるか否かを確認している。すなわち、基本的な法律用語あるいは租税法上の専門用語を理解しているか否か、租税法上の基本的な知識を有しているか否か、そして、適切に論点を明示したうえで、法的にあるいは論理的に筋道を立てて問いに対する回答を記述しようとしているか否かを中心に採点時の観点としている。

そのうえで、自己の主張や論理構成が一貫しており、説得力のある記述になっている場合または複数の法的論点を示し、法的思考能力を駆使して問題解決能力を示している場合には、さらに得点を加点することとした。

なお、修士課程に入学し、修了標準年限で必要単位を獲得し、論文作成をする必要性があることから、最低限の基本的日本語語彙能力を有しているか否か、あるいは論述する力を有しているか否かも確認している。

以上の 3 つの観点を踏まえて総合的に採点し評価した。

以上

2025 年度 4 月入学（春季） 大学院入試

研究科・課程・専攻	経営学研究科 修士課程 経営学専攻
入試種別	一般入試
試験科目	英語
実施日	2025 年 2 月 15 日（土）

●出題の意図

本問は、辞書の使用を前提としつつ、英文の字面を追うだけではなく、文の構造や文と文との論理的な関係、さらには文脈上の含意を正確に理解する読解力を測ることを目的としている。とりわけ、抽象性の高い英文において、鍵となる概念の定義や説明を的確に把握し、指示語の内容を見極めながら文章全体の主題を読み取る能力を評価することに主眼を置いている。

●解答または解答例（採点時の観点）

問 1

解答例「認知的信頼は、仕事を通して得られる信頼であり、仕事ぶりからその人が信頼できると考えるもの」

問 2

解答例「感情的信頼は、個人レベルで互いに理解し合い、ともに同じ感情を共有していると考え、相手を信頼するもの。」

問 3

訳例「それから参加者はこれらの人たちそれぞれの所に行って、自分の夢や希望だけでなく、個人的な問題や困難を話すことを、どの程度問題なく感じられるかをしめすようも定められた」

問 4

解答例「アメリカには実用面と感情面を明確に分ける長い伝統があり、両者を混同するのは、プロではなく、利益相反の危険が生じるから。」

問 5

訳例「一つの結果は、アメリカ人と働く中国人の管理職にとって、認知的信頼と感情的信頼とを分けたい、という文化的な背景に基づく傾向は、忠誠心や誠実さがいないことの表れとなりうる。」

問6

解答例「昼食をともにして、仕事につながる関係を結ぶこと」

問7

訳例「Jeb Bobko とジムでであったとき、レンは交友を深めることを期待していなかった」

問8

正解： ㄨ) stranger

問9

訳例「対照的に、アメリカ人は個人的な関係が、ビジネスのやり取りの仕方に悪い影響を及ぼすことのないようにあらゆる努力をする。」

以上

## 2025 年度 4 月入学（春季） 大学院入試

研究科・課程・専攻	経営学研究科 修士課程 経営学専攻
入試種別	外国人留学生入試
試験科目	外国語（日本語）
実施日	2025 年 2 月 15 日（土）

### 試験科目全体についての出題の意図

長文の内容を理解した上で、適切な日本語を用いて文章を要約したり、自分の意見を適切に論述したりできるかを測ることが狙いである。長文は、AI の重要性が増した現代における人間の学びと創造性の本質に関する文章である。本研究科の受験者全員にとって重要なトピックであると考え、採用した。各問に関する解答例や採点時の観点については以下の通りである。

#### 【問 1】

##### 解答例

『生成 AI の登場により、人間の学び方や思考の在り方が問われている。AI は大量の情報をもとに平均的で正確な出力を行う点で「普通の熟達者」に近づいているが、規範からの逸脱による独創的な表現や直観的判断は人間の一流の達人にしかできない。達人は長年の経験と学習を通じ、身体化された知識をもとに柔軟な判断を行う。その根底には、自ら学び続ける力＝「学力」がある。AI 時代において重要なのは、AI の操作技術ではなく、AI を道具として目的に応じて使い、自ら知識を発見・統合・修正しながら新たな知を創造していく力である。そのような力を育む教育こそが求められる。』

##### 採点時の観点

- 長文の主旨をとらえた要約になっているか。特に、AI は「普通の熟達者」には近づいているが、規範からの逸脱ができないため、一流の達人のパフォーマンスを発揮できないことを把握し、論述できているか。
- 日本語として正確で読みやすい記述になっているか。例えば誤字や文法間違いがないか。

#### 【問 2】

##### 採点時の観点

- 長文の論点を踏まえた記述になっているか。長文の主張とは異なる意見を論述してもかまわないが、その点を明確にしたうえで自分の意見を記述することが重要である。
- 意見が明確に述べられているか。
- 日本語として正確な記述ができているか。

以上

2025 年度 4 月入学（秋季） 大学院入試

研究科・課程・専攻	経営学研究科 修士課程 経営学専攻
入試種別	一般入試
試験科目	税法
実施日	2024 年 9 月 21 日（土）

●出題の意図

本試験は、経営学研究科のアドミッション・ポリシーに基づき、受験者がビジネス法分野、とりわけ租税法に関する学士相当程度の基礎知識を有するとともに、研究および論文作成について主体的に真摯に取り組む意欲や能力を備えているかを確認することを目的としている。設問は、租税法の総論から 1 問、各論の分野（所得税法、法人税法、相続税法、消費税法）からそれぞれ 1 問ずつの計 5 問のうち、2 問を選択して論述する形式である。いずれの設問も租税法の基礎知識の習得状況および学問的思考力の双方を評価できるように作成されている。

●解答または解答例（採点時の観点）

各設問に共通する採点時の観点は、以下の通りである。

- ・設問の主旨を正確に把握し、的確に論述できているか。
- ・租税法に関する基礎的な概念や法の仕組みの意義・要件・効果を正確に理解しているか。
- ・代表的な事例（租税判例・裁判例）を踏まえた説得力のある記述になっているか。

以上の点を踏まえ、文章の表現力を含む総合的な観点から評価する。

以上

2025 年度 4 月入学（秋季） 大学院入試

研究科・課程・専攻	経営学研究科 修士課程 経営学専攻
入試種別	一般入試
試験科目	英語
実施日	2024 年 9 月 21 日（土）

●出題の意図

本問は、現代の海外生活と江戸時代の出島における外国人の生活を対比した英文を通して、英文全体の内容および筆者の意図を的確に読み取る能力を問うことを目的としている。設問では、語句や文法事項を個別に理解しているかを問うだけでなく、それらを文脈の中で適切に捉え、その内容を日本語として自然に表現できるかを評価している。ことに、英文全体の構成や文と文との論理的な関係を正しく追いながら、文脈の中で用いられる抽象的な表現を的確に把握できているかに重点を置いた問題形式となっている。

●解答または解答例

問 1. 解答例

「現代の便利さを当たり前のもので捉えてしまいがちであるが、21 世紀の海外生活者は大変恵まれているのだと実感させられることがよくある。

問 2. 正解②

would が「過去の習慣」を表す用法であることを理解しているかの確認。

問 3. 解答例

「デジタル時代の日本での暮らしにおいて、私の享受する利便性がどれほどのものであるかを、最近出かけた長崎と出島資料館への旅をきっかけに強く実感するところとなった。」

問 4. 解答例

1. 日本の鎖国時代に外国人に開かれた唯一の場所。
2. 人工島で、サッカー場ほどの規模の狭さ。
3. 江戸時代のオランダ商人の貿易拠点で、日本が外の世界と接触する主要な場所であった。

問 5. 解答例

「この狭い地区を占める、復元された建物の周りを散策しながら、そこで何か月、あるいは何年もの間オランダ人商人の一人として暮らすことが、どれほど退屈に違いなかったかを考えずにはいられなかった。」

問6. 解答例

「しかし、美しい長崎の風景を外に出て探索したり、日本独特の文化や食を発見したりすることができなかったとしたら、私なら正気ではいられなかったであろう。」

問7. 解答例

「出島に閉じ込められた生活の大変さに加え、故国の人々と連絡を取るにも、母国から来る年に数隻の船に頼るほかに手段がない、ということ」

以上

2025 年度 4 月入学（秋季） 大学院入試

研究科・課程・専攻	経営学研究科 修士課程 経営学専攻
入試種別	外国人留学生入試
試験科目	経営学
実施日	2024 年 9 月 21 日（土）

●出題の意図

本設問は、大学院で経営学を学ぶ上で前提となる基礎的知識を有しているかを確認するとともに、その知識を用いて論理的に記述する力を問うことを目的として出題した。(1)では科学的管理法から人間関係論への理論的転換、(2)ではチャンドラーの命題が生まれた歴史的背景と組織論的含意、(3)では競争戦略論におけるコスト・リーダーシップ戦略の理解、(4)ではオープンイノベーションの内容を具体的事例に即して説明する力を問うている。いずれも、経営学の基本概念を正確に把握し、それらを関連づけて論述できるかをみることを意図した。

●解答または解答例（採点時の観点）

(1) ホーソン工場実験では、生産性が作業条件や金銭的刺激だけでなく、人間関係や集団規範、参加意識などの社会的・心理的要因に左右されることが示された。この点で、作業の標準化や能率向上を中心に考えたテイラーの科学的管理法とは異なり、人間関係論やその後の組織論的展開につながった。

(2) チャンドラーの「組織は戦略に従う」とは、企業が成長や多角化などの戦略を採ると、それを実行するために組織構造も変化するという命題である。背景には、アメリカ大企業が単一事業から複数事業へ展開する中で、従来の職能別組織では管理が困難になったことがある。そのため、事業ごとの責任と権限を明確にする事業部制組織が必要となった。

(3) コスト・リーダーシップ戦略とは、競争企業よりも低いコスト構造を実現することで競争優位を得る戦略である。その基盤には、産出量の増加によって単位あたりコストが低下する規模の経済と、累積的な生産経験によって効率化が進みコストが下がる経験効果があり、低価格販売だけでなく、こうした仕組みに支えられた低コスト体質の構築が重要である。

(4) オープンイノベーションとは、企業が自社内部の知識や技術だけに依存せず、外部の企業、大学、研究機関などの知識や技術を取り込むとともに、自社の知識や技術も外部に活用させながら、新たな価値創造を進める考え方である。重要なのは、単なる共同研究ではなく、組織の境界を越える知識の流れを意図的に活用してイノベーションを進める点である。例えば、製薬企業が大学やベンチャー企業と連携して新薬開発を進める事例が挙げられる。

以上

2025 年度 4 月入学（秋季） 大学院入試

研究科・課程・専攻	経営学研究科 修士課程 経営学専攻
入試種別	外国人留学生入試
試験科目	外国語（日本語）
実施日	2024 年 9 月 21 日（土）

●出題の意図

留学生が、外国語（本学の場合は日本語）を使って日常生活を送り、文献を理解して論文を書くにあたっては、単に会話スキルの向上を目指すだけでは足りず、ことばに敏感になり、細やかなニュアンスまでを読み取って表現しようと励むこと、ことばの背景にある価値観や考え方を理解しようとするのが肝要である。今回の出題では、「母語」と「母国語」という、一見、似通っているが、性格のまるで異なる二つの語句を取り上げた文章を読むことで、外国語に向き合う時に留意すべき各自の問題意識を問うた。

●解答または解答例（採点時の観点）

[問1] （解答）生まれながらの固有のことば

[問2] （解答例）少数民族ウイグル（オロッコ）の北川源太郎さんによるオロッコ語のスピーチが、新聞記事において「母国語による訴え」とであると報道された。しかし、日本国籍であろう北川さんにとっての「母国語」は日本語であり、オロッコ語は、北川さんが母国日本から使用を保障されてこなかった「母語」なのである。北川さんの訴えを報じ、言語的少数者が置かれている状況を世に知らせようと共感する文章においてさえ「母語」と「母国語」の区別がなされず、さらにそのことに誰からも疑問が出なかったことに対して、筆者は、単一民族国家である日本のことばはすべて国語であると思いついてきた日本人の盲点を感じとったから。

[問3] （採点時の観点）

- ・文字が適切に表記されているか
- ・適切な文字数で書かれているか
- ・文法に乱れがないか
- ・本文中のことばをそのまま用いるのではなく、適宜、抽象化してまとめられているか
- ・設問（「自分の考えを述べよ」）に応えられているか（本文の要約に留まっていな  
いか）
- ・本文の趣旨を理解し、的確に論述できているか
- ・論理構成が一貫しており、説得力のある記述になっているか

以上

## 2024 年度 9 月入学 大学院入試

研究科・課程・専攻	経営学研究科 修士課程 経営学専攻
入試種別	外国人留学生入試
試験科目	経営学
実施日	2024 年 6 月 29 日 (土)

### ●出題の意図

本問題は、古典的経営学から近代経営学、経営戦略論および経営組織論に至る主要理論を体系的に理解しているかを確認することを目的とした。第 1 問では、科学的管理法の限界を補完し、その後の組織研究の基盤となった人間関係論の意義を問うことで、古典的経営学における理論的転換の理解を評価した。第 2 問では、外部環境に基づく戦略的選択を重視するポジショニング・アプローチを取り上げ、経営戦略論における基本枠組みの把握を確認した。第 3 問では、組織を協働システムとして捉えたバーナードの理論を通じて、近代経営学における組織概念の理解を問うた。第 4 問では、モチベーション研究の主要領域である内容理論の代表として欲求段階説を扱い、行動の背景にある欲求構造の理解を評価した。以上を通じ、各理論の特徴と成立背景を総合的に理解しているかを判定することを意図した。

### ●解答または解答例（採点時の観点）

（解答例）

(1) ホーソン工場実験では、生産性が作業条件よりも、同僚との関係や集団規範、参画意識など社会的かつ心理的要因に影響されることが示された。これを基にした人間関係論は、給与による動機づけを重視した科学的管理法の限界を補い、組織を社会的存在として理解する視点を生み出した。現代でも、モチベーションを重視するリーダーシップやエンゲージメント向上施策などに応用され、人間関係への配慮が成果を高めるという考え方は継承されている。

(2) ポジショニング・アプローチは、企業の競争優位が業界の外部環境によって規定されると考え、企業がどの位置取りを選択するかによって成果が決まるとする戦略論である。ポーターは業界構造分析（ファイブ・フォース）を用いて、既存企業間の競争、買い手・売り手の交渉力、新規参入の脅威、代替品の脅威という五つの力を分析し、業界の収益性や競争強度を評価した。企業はこれらの外部要因を踏まえて、コストリーダーシップや差別化などの事業立地を選択し、競争優位を確立する。これは内部資源を重視するリソースベースドビューとは異なり、外部環境に基づく戦略形成を重視する点が特徴である。

(3) チェスター・バーナードは組織を「二人以上の人々が協働するために意識的に調整された行動の体系」と定義し、組織を協働システムとして捉えた。彼は組織が成立するためには、第一に成員が共有する共通目的、第二にその目的達成に向けて成員が行動する貢献意欲、第三に成員間の行動を調整するためのコミュニケーションの三要素が不可欠であるとした。

これらが相互に機能することで組織は維持され、経営管理者はこれらを整える重要な役割を担うとした点が近代経営学における重要な貢献である。

(4) モチベーションの内容理論は、人の行動を生み出す要因として、人の欲求の内容に焦点を当て、どのような欲求が動機づけとなるのかを明らかにしようとする理論である。マズローの欲求段階説はその代表で、生理的欲求、安全欲求、所属・愛情欲求、承認欲求、自己実現欲求の五段階に整理し、下位の欲求が満たされると上位の欲求が顕在化するとした。この理論は、人間の欲求は一様ではなく、低次から高次まで段階的に存在することを示すものであり、内容理論の特徴をよく表している。

(採点時の観点)

- ・理論の特徴や背景を正確に理解し、設問の意図に沿って説明できているか。
- ・関連する概念・対立する理論との比較・キーワードを適切に用いながら論述できているか。
- ・現代マネジメントへの応用例を具体的に示し、論理的で一貫性のある説明となっているか。

以上

2024 年度 9 月入学 大学院入試

研究科・課程・専攻	経営学研究科 修士課程 経営学専攻
入試種別	外国人留学生入試
試験科目	外国語（日本語）
実施日	2024 年 6 月 29 日（土）

●出題の意図

問 1

本学大学院での学修が可能な水準で、日本語のアカデミックな文章を正確に理解し、その理解した内容を適切に日本語で表現することができるかを判定するため、要約の課題を課す。

問 2

本学大学院での学修が可能な水準で、日本語の文章で何が求められているのかを正確に理解し、自分の意見を日本語で適切に論じることができるかを判定するため、日本語で自分自身の考えを述べる課題を課す。

●解答または解答例（採点時の観点）

採点時の観点

- ・日本語の設問の主旨を正確に把握したうえで回答できているか
- ・日本語の語彙力が十分か、表現が自然か
- ・日本語の文法を適切に運用できているか
- ・日本語で文章を論理的に展開することができるか

以上

2025 年度 4 月入学（春季） 大学院入試

研究科・課程・専攻	経営情報研究科 修士課程 経営情報専攻
入試種別	外国人留学生入試
試験科目	データサイエンス
実施日	2025 年 2 月 15 日（土）

●出題の意図

問1（1）では、令和6年版情報通信白書 第1節 AI 進展の経緯と生成 AI のインパクトの図を読み取り、AI の各ブームの中心技術と限界、その要因の因果関係を説明できるかを確認し、AI について体系的に学んでいるかを確認する。問1（2）および問2では、主要テクニカルタームを正確に定義し、具体例とともに自分の言葉で整理・記述する力、さらに選択問題で基礎概念を応用的に論述する力を評価する。

●解答または解答例（採点時の観点）

問1（1）

図の内容に即して第一次・第二次 AI ブームの特徴（探索・推論／知識ベース等）と冬の時代に至った理由（計算資源・計算量、知識獲得/保守、投資対効果など）を論理立てて説明できているかを評価する。

問1（2）

選択した用語の定義、技術的な仕組み、その技術の利点と欠点、具体的な利用例を説明できているかを評価する。

問2

選択した設問（学習法、ハルシネーション、データ/情報/知識）の概念を誤用なく、説明できているかどうかを評価する。

以上

2025 年度 4 月入学（春季） 大学院入試

研究科・課程・専攻	経営情報研究科 修士課程 経営情報専攻
入試種別	外国人留学生入試
試験科目	メディア表現
実施日	2025 年 2 月 15 日（土）

●出題の意図

「メディアと表現」の関係性を探求するにあたって、近年現代アートの領域で注目を集めているメディアアートを取り上げ、これに関連した専門的な知識の有無を確認した。また単なる知識の修得だけでなく、自身の実体験をふまえて、テクノロジーと表現の関係性をどのように捉えているのかを確認した。併せて、日本語の文章力も確認した。

●解答または解答例（採点時の観点）

問 1

- (1) コンピュータがビデオアートの表現形式を拡張したことについて言及できているか
- (2) メディアアートを現代アートの一領域として捉え、その前衛的な概念を分かりやすく説明できているか
- (3) インタラクティブアートの先進性について、作品と鑑賞者の関係性という観点から説明できているか

問 2

- ・ 事例として取り上げたコンテンツは設問の主旨に沿っているか
- ・ 自身の実体験を客観的に分析し、論理的に分かりやすく説明できているか

以上

2025 年度 4 月入学（秋季） 大学院入試

研究科・課程・専攻	経営情報研究科 修士課程 経営情報専攻
入試種別	外国人留学生入試
試験科目	データサイエンス
実施日	2024 年 9 月 21 日（土）

●出題の意図

本設問は、Society5.0 やデータ/情報/知識、機械学習の基本分類、データサイエンティストに必要な能力といった基礎概念を問う問題である。本問題において、主要テクニカルタームを正確に定義し、具体例とともに自分の言葉で整理・記述する能力があるかどうかを評価する。

●解答または解答例（採点時の観点）

- ・ 設問の主旨を正確に把握し、用語を適切に定義できているか（Society5.0、データ/情報/知識、機械学習の基本分類、データサイエンティストの必要能力など）を評価する。
- ・ 具体例が妥当で、違い・目的・使い分けが明確かを評価する。
- ・ 論理構成が一貫し、根拠や前提が読み取れるかを評価する。

以上

2025 年度 4 月入学（秋季） 大学院入試

研究科・課程・専攻	経営情報研究科 修士課程 経営情報専攻
入試種別	外国人留学生入試
試験科目	メディアの規範理論研究
実施日	2024 年 9 月 21 日（土）

●出題の意図

本試験科目の出題意図は以下の 3 つである。指定テキストから (1) メディアの規範理論研究の根本的な認識に関わる基礎知識、次に (2) 「メディア」をどのように捉え、それをめぐる研究と研究の社会的意義についての理解をはかる。そのうえで (3) 受験者本人がそうした「メディア」と自らの研究課題とをどのように関連付けられるかを問うものである。

●解答または解答例（採点時の観点）

出題の意図の (1) と (2) については「公共圏」と「メディア」の用語を十分に理解できているか、また、設問に対して内容が的確かつ論理的に展開できているかを中心に評価する。③) に関しては受験者本人の研究課題との関連付けが説得力をもった論理的な構成となっているかを確認する。

以上

2024 年度 9 月入学 大学院入試

研究科・課程・専攻	経営情報研究科 修士課程 経営情報専攻
入試種別	外国人留学生入試
試験科目	消費者行動論
実施日	2024 年 6 月 29 日 (土)

●出題の意図

消費者行動研究における基礎知識を有しているか、基礎的かつ主要なキーワードに関する概念理解の正確さを確認する問題である。また、定義されている概念を、消費者の行動や企業のマーケティングにおいて生じている事象などの説明に適用することができる思考力を試す問題である。

●解答または解答例（採点時の観点）

論理的かつ正確な日本語の文章で、それぞれの問題について次の内容を詳述できているかを評価した。

- (1) 「既存の自社商品に囚われ、潜在する顧客ニーズを捉え損なうこと」の意で説明し、市場の変化により淘汰された商品の事例を挙げていること。
- (2) 自己評定による方法を挙げ、オピニオン・リーダー尺度などを用いたアンケート調査による測定方法を詳述していること。
- (3) 「購買前探索」と「継続的探索」の 2 つを挙げ、前者は消費者が購買状況に直面して行われ、後者は製品関与の高い消費者が購買予定なしに行うことを、商品選択の場面を用いて説明していること。

以上

2025 年度 4 月入学（春季） 大学院入試

研究科・課程・専攻	人間科学研究科 修士課程 人間共生専攻
入試種別	外国人留学生入試
試験科目	ヘルスケア領域
実施日	2025 年 2 月 15 日（土）

●出題の意図

【Ⅰ】高齢者に関する設問

日本では、2000 年 4 月の介護保険制度の導入により、要介護度に応じた介護サービスが提供されているが、社会保障費を抑えるため、地域住民が参画する地域包括ケアシステムの構築が進められている。一方中国の介護事情は子どもや女性が担う家族介護が中心であり、そうした社会背景の違いを理解しているか問う設問である。また中国ではデジタル化の普及が目覚ましく発展しており、そうしたデジタル化の視点も重要である。

【Ⅱ】ひきこもりに関する設問

これまでのひきこもり観は専門家による治療に主眼を置いた医療モデルが主体であった。近年医療モデルから生活モデルに変換され、当事者の立場に立ち、居場所に通いながら自己肯定感を高めることに主眼が置かれている。ひきこもりを否定するのではなくむしろ尊重する新しいひきこもり観が主体となっている。こうした新しいひきこもり観を理解しているか問う設問である。

●解答または解答例（採点時の観点）

【Ⅰ】高齢者に関する設問

地域包括ケアシステム構築の主旨を正確に把握し、的確に論述できているか。日本と中国の介護事情の社会背景の違いを理解し、的確に論述できているか。

【Ⅱ】ひきこもりに関する設問

生活モデルの観点から、居場所に通いながら自信をつけ、ひきこもりを尊重する新しいひきこもり観を把握し、的確に論述できているか。ひきこもり当事者の立場に立った理解や見識をもち、説得力のある記述になっているか。

以上

2025 年度 4 月入学（春季） 大学院入試

研究科・課程・専攻	人間科学研究科 修士課程 臨床心理学専攻
入試種別	一般入試
試験科目	臨床心理学に関するもの
実施日	2025 年 2 月 15 日（土）

【問題 1】

●出題の意図

早期乳児期から幼児期にかけての子どものこころの発達についての基本的な理解を確認すること、および、それらの理解を用いて自分なりの考察をする力を見ることが本設問の趣旨です。

「こころへの関心」という用語は、大学院レベルの専門知識に当たるかもしれないことから、注釈をつけて解説していますが、「心の理論」「言語発達」「アタッチメント」といった、基本的に学部の「臨床心理学」や「発達心理学」等で学習することがらについての適切な理解がなければ、本設問の考察を行うことはできません。これらの知識を踏まえたうえで、「行動上の問題を呈する子どもは、多くの場合、言語能力が低い」とされるのはなぜなのか、考察する力を見ます。つまり、知識として知っていることを用いて、ある命題について考察し、記述する力を見ることが本出題の意図です。

●解答または解答例（採点時の観点）

- ・「心の理論」と「アタッチメント」という用語について、適切な理解をしているか。
- ・「言語能力の発達」についての適切な理解があるか。
- ・「心への関心」という用語の注釈を「心の理論」「アタッチメント」「言語能力の発達」と関連づけて理解することができているか。

以上の基本的な事項を踏まえたうえで、単に知識をまとめるにとどまらず、それを用いて自分なりの観点をもって考察できていること、また、その考察を的確かつ簡潔にまとめて述べているかどうか採点時の観点です。

【問題 2】

●出題の意図

本設問は、心理臨床において重要な家族関係の理解について、複数のアセスメント方法を体系的に把握しているかを評価するのが意図である。

具体的には、面接、質問紙、描画法、家族図（ジェノグラム・エコマップ）などの中から、家族関係を理解する代表的手法を挙げ、それぞれの理論的背景や把握できる情報の特徴、適用範囲の違いを理解しているかを確認すること、実施に際しての倫理的配慮、家族力動への影響、被検者の負担や関係性への配慮など、実践的留意点を踏まえて説明できるかを通して、臨床場面に即した応用力を測ることを意図している。

●解答または解答例（採点時の観点）

単なる知識の列挙にとどまらない臨床的視点の有無を重視した上で、大きく次の2つの観点から採点している。

(1) 家族関係をアセスメントする方法が2つ以上、明確に区別して提示されているか。

(2) 提示した各方法について、概要・特徴・実施上の留意点を具体的に説明できているか。

特に、方法ごとの利点と限界、得られる情報の質的・量的違い、年齢や家族状況に応じた使い分けへの理解が示しているか。

【問題3】

●出題の意図

本設問は、心理社会的支援を個人への援助にとどめず、コミュニティという文脈の中で捉える視点を有しているかを確認することを目的としている。心理職がコミュニティ・アプローチを用いる意義を理解し、その特徴や限界、実践上の留意点を具体的に説明できるかを問う。

●解答または解答例（採点時の観点）

解答では、心理職がコミュニティ・アプローチを用いる意義として、個人が抱える困難を環境や人との相互作用の中で捉え、地域の人的・制度的資源を活かした支援につなげる視点が示されているかを採点時の観点とする。その上で、個別面接や集団療法との相違点について、支援対象の範囲、介入のあり方、心理職の役割を説明できているかを評価する。さらに、多職種連携など、実践上の留意点について具体的に論じられているかを総合的に判断する。

【問題4】

●出題の意図

多職種連携がより重要な要因となりうる重篤な精神的問題を抱えるクライアントの事例を通して、医療における多職種チームによる援助方法や、チームの一員としての心理職の役割について、クライアントを的確にアセスメントしたうえで、具体的なプランを提示できるかどうかを評価することを意図した。

●解答または解答例（採点時の観点）

・事例の抱える問題や取り巻く環境を的確にアセスメントできているかどうか。

・多職種チームにおける、それぞれの専門職の専門性やそのアプローチ方法を理解しているかどうか。

・提示したケースの特徴にそって、多職種チームにおいて求められる心理職の役割を的確に記述できているかどうか。

以上

2025 年度 4 月入学（春季） 大学院入試

研究科・課程・専攻	人間科学研究科 修士課程 臨床心理学専攻
入試種別	一般入試
試験科目	外国語（英語）
実施日	2025 年 2 月 15 日（土）

●出題の意図

本設問は、英語の読解力に加え、心理学的内容を正確に理解し、論理的に説明する力を総合的に評価することを目的としている。（1）では英文の意味を文脈に即して適切に訳すことができるか、（2）では筆者の主張を読み取り、理由を整理して説明できるか、（3）では、本文内容を踏まえつつ、Post-traumatic growth（PTG）に関する理解を統合し、心理的支援の在り方について考察する力を問う。

●解答例または採点時の観点など

以下の点を踏まえ、内容理解の正確さおよび論理的一貫性について総合的に判断する。

（1）では、文脈を踏まえた適切な日本語訳となっているかを評価する。

（2）では、Post-traumatic growth（PTG）に関する研究知見を踏まえ、筆者が当該の見解を示している理由を論理的に説明できているかを評価の観点とする。

（3）では、本文内容を踏まえつつ、Post-traumatic growth（PTG）に向けた心理的アプローチについて、具体性をもって論述できているかを評価する。

以上

2025 年度 4 月入学（秋季） 大学院入試

研究科・課程・専攻	人間科学研究科 修士課程 人間共生専攻
入試種別	外国人留学生入試
試験科目	スポーツクラブマネジメント特論
実施日	2024 年 9 月 21 日（土）

●出題の意図

スポーツマーケティングにおけるターゲットの設定とマーケティングの理論を活用した解決策の提示ができていないか、自らの研究テーマについて、具体的な課題の深堀ができていないか、そして、それを先行研究のなかで、どのように位置づけることができていないかについて理解度ははかまることを意図した出題になっている。

●解答または解答例（採点時の観点）

問題 1. 採点時の観点

- ・顧客志向というキーワードを理解したうえで、販売志向との相違／顧客志向の限界について学術的な議論を示しつつ、論じることができているか
- ・スポーツマーケティングについて、スポーツのマーケティングとスポーツを活用したマーケティングの違いを示したうえで、事例を用いつつ論述することができる

問題 2. 採点時の観点

- ・設問の指示どおり、具体的なデータの数字を用いつつ、的確に論述できているか
- ・ターゲット設定の明確さと意図が具体的に示されているか
- ・プログラム参加への可能性とマーケットの大きさの両面でターゲット設定を行っているか
- ・マーケティングミックスの枠組み等、マーケティングの手法を背景にした論述ができているか

問題 3. 解答および採点時の観点

（設問①）解答

非日常空間での深い達成感

（設問②）採点時の観点

コースの設定（競技性、安全性）や設備（トランジッション、トイレ）について、宿泊・観光・食事といったツーリズム視点、アクセスや申し込み方法の対応、町の人との交流やふれあい機会の創出の観点において、それぞれ具体的な工夫を抽出できているか

問題 4. 採点時の観点

- ・論理構成が一貫しており、説得力のある記述になっているか
- ・テーマ設定についての具体性、課題の構造化ができているか
- ・テーマについて、先行研究の収集を行ない、自らの立ち位置について説明ができているか

以上

2025 年度 4 月入学（秋季） 大学院入試

研究科・課程・専攻	人間科学研究科 修士課程 人間共生専攻
入試種別	一般入試
試験科目	スポーツハイパフォーマンス特論
実施日	2024 年 9 月 21 日（土）

●出題の意図

本設問は、持久系パフォーマンスを「酸素供給と酸素利用」の統合モデルとして理解し、VO2max の規定因子（最大心拍出量・動静脈酸素較差）を説明できるかを確認する。加えて、記録を左右する LT（乳酸作業閾値）・RE（ランニングエコノミー）を含め、目的に応じたトレーニングを論理的に選択できるかを問う。さらに、任意競技を例に、測定→解釈→介入→検証の循環（科学的サポート）を具体指標とともに設計できるかを評価する。

●解答または解答例（採点時の観点）

VO2max は、活動筋への酸素運搬を規定する最大心拍出量（HR×SV）と、筋での酸素抽出・利用を表す動静脈酸素較差で規定される。長距離走では VO2max に加え、LT と RE が成績を左右するため、HIIT で VO2max、閾値走で LT、筋力・プライオやフォーム改善で RE を高める方略を述べる。科学的サポートは、区間タイムやピッチ×ストライド等を測定し課題仮説を立て処方し、再測定で効果検証まで示す。

以上

2025 年度 4 月入学（秋季） 大学院入試

研究科・課程・専攻	人間科学研究科 修士課程 臨床心理学専攻
入試種別	一般入試、外国人留学生入試
試験科目	臨床心理学に関するもの
実施日	2024 年 9 月 21 日（土）

【問題 1】

●出題の意図

まず、冒頭の「発達障害を持つ子どもに対しては、幼稚園や保育所、学校現場における支援のほか、放課後等デイサービスにおける集団／個別療育やスピーチセラピーなど、様々な支援が行われています。」において、発達障害を持つ子ども、およびその支援についての基本的な理解があることを確認しています。これは、学部の公認心理師科目「発達心理学」「障害者・障害児心理学」「福祉心理学」「公認心理師の職責」等の座学、および「心理実習」を通じて経験から学んできていることが期待されることがらです。

設問は、これらの学びを通じて、臨床心理学の専門的な立場からの支援はもとより、より多角的な視点から、多職種協働を視野に入れた支援についても、自分自身の言葉で自分の考えを説明できる力を見ることを意図しています。

●解答または解答例（採点時の観点）

基本的に、設問の主旨を正確に把握し、的確に論述することができているかどうかをみます。本設問では、具体的に以下の三点が抑えられているかどうか重要なポイントです。

- ・発達障害を持つ子どもとその支援について、理解しているか。
- ・臨床心理学の専門的な立場から、どのような支援ができるのかを理解するとともに、そのことについて、自分自身の考えを的確に述べているか。
- ・多職種との協働について理解し、それについての自分自身の考えを的確に述べているか。

【問題 2】

●出題の意図

公認心理師法第 4 章「義務等」において、第 43 条「資質向上の責務」として挙げられているように、心理職として働き続けるためには、知識、技術をアップデートし、能力/資質、態度等を研鑽する生涯学習の姿勢を持ち続けることとともに、常に自分自身についての理解を深める姿勢が必須である。このような考え方を理解し、かつ身についているかどうかを評価することを意図した。

●解答または解答例（採点時の観点）

- ・心の健康を取り巻く環境の変化による業務内容の変化に適応するために専門的知識や技術の向上に努め、かつ自分自身をよりよく知ろうとする姿勢を保持する必要がある点について

て、的確に記述しているか。

- ・生涯学習を可能にする複数の具体的な方法、例えば、スーパービジョン、研究会等への参加、研究活動などについて言及し、多面的に論じているか。

### 【問題3】

#### ●出題の意図

本設問では、思春期の不登校・ひきこもり事例に対して、心理専門職として適切な心理アセスメントを構想できるかを評価することを目的としている。

具体的には、主訴や生活状況、発達、心理社会的背景を踏まえ、目的に応じた心理検査を選択し、その検査の特徴・限界を理解した上で、選択理由を論理的に説明できるかを確認したいというのが意図である。また、心理検査結果のフィードバックにおいて、年齢や心理状態、家族関係を考慮した説明上の配慮や支援的態度を具体的に示せるかを通して、臨床実践に即した総合的判断力と倫理的配慮の理解を測ることを意図している。

#### ●解答または解答例（採点時の観点）

採点にポイントは次の3点である。

- (1) Aさんの状態像（不登校、抑うつ的反応、対人関係ストレス、生活リズムの乱れ、摂食・身体症状など）を踏まえた適切な心理検査の選定ができているか。
- (2) 選択した心理検査について検査名の列挙にとどまらず、各検査の目的、測定内容、利点・限界を理解した上で選択理由が説明できているか。
- (3) フィードバック場面については、結果の伝え方への心理的配慮、自己理解やカウンセリングへの動機づけにつなげる工夫、医師や家族との連携の意識といった視点が含めて説明できているか。

### 【問題4】

#### ●出題の意図

本設問は、災害後に生じる心理的变化を、一過性の反応としてではなく、時間的な過程として理解しているかを確認することを目的としている。加えて、そうした心理的变化を踏まえ、画一的な支援にとどまらず、各時期に応じた心理支援の在り方について自ら考え、適切に論述できるかを問うものである。

#### ●解答または解答例（採点時の観点）

解答にあたっては、被災直後から中長期に至る心理的变化について、茫然自失期、ハネムーン期、幻滅期などの段階を踏まえ、それぞれの特徴を適切に説明できているかを評価の観点とする。その上で、各時期における心理支援の留意点について具体的に論じられているか、ならびに支援者としての視点や配慮が示された論述となっているかを含め、総合的に評価する。

以上

2025 年度 4 月入学（秋季） 大学院入試

研究科・課程・専攻	人間科学研究科 修士課程 臨床心理学専攻
入試種別	一般入試
試験科目	外国語（英語）
実施日	2024 年 9 月 21 日（土）

●出題の意図

多職種連携は、いずれの領域で働く心理職にとっても身に着けておかねばならない考え方であり能力である。また、公認心理師法第 4 章「義務等」の第 42 条には他の関係者および主治の医師との連携について言及がなされている。しかしながら、実際に多職種連携を有効に機能させるのは容易なことではないことも多い。受験者が多職種連携の必要性和、かつその困難さについてどのように考えているかを問うことを意図した。

●解答または解答例、採点時の観点など

- ・設問の英文全体の文脈を適切に理解し、正確な日本語訳ができているか。
- ・多職種連携の基本的な考え方と、その難しさと留意点について、設問の英文に沿って自分の考えを明確かつ適切に記述しているかどうか。
- ・チーム全体、臨床現場全体の集団力動について理解することの重要性について、設問の英文に沿って記述しているかどうか。

以上

## 2024 年度 9 月入学 大学院入試

研究科・課程・専攻	人間科学研究科 修士課程 人間共生専攻
入試種別	外国人留学生入試
試験科目	スポーツクラブマネジメント特論
実施日	2024 年 6 月 29 日 (土)

### ●出題の意図

現在の日本のスポーツ政策の基礎的な数字と方向性について知識があること。

スポーツについての基本的な考え方、スポーツマーケティングにおけるターゲットの設定とマーケティングの理論を活用した解決策の提示、スポーツマネジメントにおける（経営、財務）の基本用語と考え方の理解を確認することが出題の意図である。

### ●解答または解答例（採点時の観点）

#### 1. 解答

- (1) (A アクセスできる)
- (2) (B DX) (C 産業) (D まちづくり) (E ガバナンス) (F インテグリティ)
- (3) (G 70) (H 100) (I 体育授業) (J 40) (K 過去最高 ) (L 15) (M 国際競技連盟 )  
(N 継続) (O 新体力テスト)

#### 2. 採点時の観点

- ・論理構成が一貫しており、説得力のある記述になっているか
- ・スポーツの語源から、その定義を明確にしたうえで論述を展開している
- ・ルール／審判／相手というキーワードを示しつつ、スポーツマンシップのキー概念である「尊重」を理解した解答になっている
- ・上記のポイントを踏まえて、自らの体験を文章として示すことができる

#### 3. 採点時の観点

- ・論理構成が一貫しており、説得力のある記述になっているか
- ・ミッション、ビジョン、事業のそれぞれについて、正確な説明があるか
- ・事例を活用しながら、ミッション、ビジョン、事業のつながりを説明できているか
- ・現状とビジョンとのギャップを把握したうえで、事業を示すことができているか

#### 4. 採点時の観点

- ・設問の指示どおり、具体的なデータの数字を用いつつ、的確に論述できているか
- ・ターゲット設定の明確さと意図が具体的に示されているか

- ・プログラム参加への可能性とマーケットの大きさの両面でターゲット設定を行っているか
- ・マーケティングミックスの枠組み等、マーケティングの手法を背景にした論述ができているか

## 5.

### (1) 解答

a 活動損益＝

$$(1,600,000 + 9,600,000 + 634,000 + 400,000 + 18,520) - (2,480,000 + 1,600,000 + 5,800,000 + 1,500,000 + 1,426,000 + 500,000 + 295,092 + 820,000) = -2,168,572$$

b 活動効率＝

$$12,252,520 \div 9,521,092 = 1.28688 \dots 1.3$$

c 補助金依存率＝

$$(2,400,000 + 230,000) \div 14,882,520 = 0.1767 \dots 0.18$$

d 人件費率＝

$$(2,480,000 + 1,600,000) \div 12,252,520 = 0.332 \dots 0.33$$

### (2) 解答例

活動効率は基準値を上回っているが、活動損益が基準以下である。改善策は、コスト、特に人件費を今より削減するか、収益力を高めて活動効率を3くらいまで高めていくかの2通りが考えられる。Aクラブの場合、0.33という人件費率はそれほど高いとは言えず、参加費等の価格を見直す（原価計算）ことで、コストに見合った適正な価格設定を行い、活動効率を改善することが有効であると考えた。

以上